

弘前市文化芸術振興計画_基本目標・事業評価管理シート(事務局案)

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

基本目標	指標の状況				2021年度自己評価	
	指標の名称	基準値※	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	評価	評価の理由
基本目標1 多彩な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実	文化芸術公演等の鑑賞や文化芸術活動への参加をしている市民の割合	20.2%	25.3%	20.7%	□	新型コロナウイルス感染症の影響により多くの文化芸術イベント等が中止となったほか、文化芸術団体等の活動についても自粛せざるを得ない状況が続いている。指標の状況も、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため、□とした。
	文化施設利用者数	132,477人	409,270人	132,711人	□	新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き施設休館日が多く、特に今年度は多くの文化芸術イベントが開催される9月と2～3月に施設休館となった。そのような状況にもかかわらず、文化施設職員や指定管理者職員が、なるべく多くの団体が利用できるよう積極的に日程調整を行い、自ら文化芸術イベントを企画・宣伝した結果、基準値と比べほぼ変化がない状況にまで伸ばすことができたため、□とした。
基本目標2 文化芸術活動の活性化	市民文化祭や一流芸術文化イベント等の参加者数及び鑑賞者数	2,459人	19,434人	9,684人	○	今年度はNHKとの共催事業を開催し、市民文化祭の開催イベント数が16（昨年度は5）になるなど、昨年度より開催イベント数が増加した。ただ、今年度も補助金交付団体のうち3団体がコロナの影響で事業を中止した。結果として、参加者数及び鑑賞者数は基準値より大幅に上昇したため○とした。
基本目標3 次代の文化芸術を担う人材の育成	後継者育成のための講習会等への参加者数	190人	790人	170人	□	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で弘前ダンスフェスティバル事業と弘前ユースストリングアンサンブル指導者招へい事業以外の後継者育成事業が中止となり、基準値より20人減少した。弘前ダンスフェスティバル事業自体の参加者数は昨年度とほぼ変化がないため□とした。
基本目標4 市民が誇れる文化財の継承	郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じている市民の割合	63.6%	67.9%	65.6%	□	指標の状況が基準値と比べほぼ変化がない状況であるため□とした。
	文化財の公開・活用イベント等に参加したことのある市民の割合	20.6%	24.0%	23.7%	□	新型コロナウイルス感染症の影響により多くの文化財の公開・活用イベント等が中止となったが、指標の状況が、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため□とした。
基本目標5 文化芸術を活かしたまちづくり	文化芸術が市の観光振興や産業振興などまちづくりに活用されていると感じる市民の割合	68.4%	75.6%	68.4%	—	2021年度実績より取得開始のため、評価対象外。

※基本目標1～4の基準値は2020年度の実績を採用。基本目標5の基準値は、2021年度の実績を採用予定。

< 施策・事業評価【基本目標 1】 >

基本目標	指標の状況				2021年度の自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	評価	評価の理由
基本目標 1 多彩な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実	文化芸術公演等の鑑賞や文化芸術活動への参加をしている市民の割合	20. 2%	25. 3%	20. 7%	□	新型コロナウイルス感染症の影響により多くの文化芸術イベント等が中止となったほか、文化芸術団体等の活動についても自粛せざるを得ない状況が続いている。指標の状況も、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため、□とした。
	文化施設利用者数	132, 477人	409, 270人	132, 711人	□	新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き施設休館日が多く、特に今年度は多くの文化芸術イベントが開催される9月と2～3月に施設休館となった。そのような状況にもかかわらず、文化施設職員や指定管理者職員が、なるべく多くの団体が利用できるよう積極的に日程調整を行い、自ら文化芸術イベントを企画・宣伝した結果、基準値と比べほぼ変化がない状況にまで伸ばすことができたため、□とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標 1　－　施策 1）　優れた文化芸術の鑑賞・体験機会の提供　－　a　優れた文化芸術の鑑賞機会の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和 3 年度 実施状況	令和 3 年度 自己評価	評価の理由	令和 4 年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
1－1）－a－①	弘前城新能開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）	p. 42	－	観光部	文化振興課	文化都市弘前のさらなる発展の契機とするとともに、地域固有の文化財を活用し、若者を含む多くの市民が一流の伝統芸能に触れる機会とするもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　　0人 ②594/637席	①　　0人 ②594/637席	－	－	－	－	－	新型コロナウイルス感染症の影響により、2度の延期の末、2月27日の振替公演を目指して取り組んだが、感染再拡大に伴う「まん延防止等重点措置」の適用等もあり、やむを得ず中止とした。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったが、弘前城新能PRプロジェクトによる成果もあり、B評価とした。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による中止により、事業終了とした。
1－1）－a－②	NHK全国放送公開番組開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）	p. 42	－	観光部	文化振興課	市民に対し、NHKが制作する文化芸術番組の公開収録を開催することで、市の文化振興とPRを図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　517人 ②517/620席	①　517人 ②517/620席						新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約83%となった。	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約83%となったため、A評価とした。	令和5年度以降もNHKの開催募集に応募する予定（令和4年度は開催決定済）。
1－1）－a－③	宝くじ文化公演開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）	p. 42	－	観光部	文化振興課	市民に対し、上質な音楽や演劇等を安価で提供して、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　　0人 ②618/637席	①　　0人 ②618/637席						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和5年度以降も申請予定。
1－1）－a－④	将棋名人戦弘前対局記念大会事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）	p. 42	－	観光部	文化振興課	一流棋士を招へいし、指導対局や教室を行うことで一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	－	－						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。 次回開催時の実績を指標とする。
1－1）－a－⑤	弘前ダンスフェスティバル事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）	p. 42	－	観光部	文化振興課	一流のダンサーを招へいし、ダンスフェスティバルを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	参加者数	305人	1, 830人						会場参加とオンライン参加の選択肢を設け、全国各地から参加者を集めることができた。	A	コロナ禍においても、オンラインを活用して全国各地からの参加を実現し、事業目的を達成したため、A評価とした。	令和4年度以降もオンラインを活用した事業展開をする予定。
1－1）－a－⑥	児童文化研究サークル連合会事業費補助金	p. 42	－	観光部	文化振興課	弘前市児童文化研究サークル連合会の技術研修の一環として実施される人形劇団ブークの公演を開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	－	－						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。 次回開催時の実績を指標とする。
1－1）－a－⑦	弘前オペラ事業費補助金	p. 42	－	観光部	文化振興課	弘前オペラを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　326人 ②326/584席	①　326人 ②326/584席						新型コロナウイルス感染症の影響により、延期および会場変更しての開催となった。	A	コロナ禍においても開催を実現し、市内小・中・高等学校生の無料招待をすなど事業目的を達成したため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
1－1）－a－⑧	弘前市民会館自主事業開催負担金	p. 43	－	観光部	文化振興課	弘前市民会館が自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	①2事業 ② 44人	①2事業 ② 44人						新型コロナウイルス感染症の影響により、自主事業2事業の開催となった。	B	コロナ禍においても開催を実現し、参加人数はコロナ禍以前より少なかったものの、一流の楽器に触れる機会を市民に提供できたため、B評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
1－1）－a－⑨	弘前市岩木文化センター文化事業開催負担金	p. 42	－	観光部	文化振興課	弘前市岩木文化センターが自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	－	－						新型コロナウイルス感染症の影響もあり新たな委員の募集及び委員会の設立がされなかった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。
1－1）－a－⑩	弘前文化会館指定事業及び自主事業開催	p. 43	－	観光部	文化振興課	弘前文化センター指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	－	－	－					－	－	－	令和5年度の施設再開の際に、あらためて実施計画を立てる予定。
1－1）－a－⑪	弘前市民文化交流館指定事業及び自主事業開催	p. 43	－	観光部	文化振興課	弘前市民文化交流館指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	①　9事業 ②2, 915人	①　3事業 ② 453人						文化芸術に係る指定事業及び自主事業は15事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により12事業が中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により大半の事業が開催中止となったため、評価対象外とした。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら開催する予定。 （令和4年度は、文化芸術に係る指定事業及び自主事業を17事業開催する計画）
1－1）－a－⑫	弘前市立百石町展示館指定事業及び自主事業開催	p. 43	－	観光部	文化振興課	弘前市立百石町展示館指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	①1事業 ② 42人	①1事業 ② 52人						当初計画では指定事業1事業を開催予定であり、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となったが、開催することができた。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により指定事業1事業のみの計画となったが、当初の計画とおり開催することができたので、B評価とした。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら開催する予定。 （令和4年8月1日時点で、自主事業1事業開催済）
1－1）－a－⑬	【新規】料金等の優遇措置の検討	p. 42	－	観光部	文化振興課	子どもが文化芸術の公演や展覧会などを鑑賞する際の入場料や参加料を優遇することで、若い世代が文化芸術に触れる機会の促進を図るもの。	－	－	－	－					－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

◆基本目標 1　－　施策 1）　優れた文化芸術の鑑賞・体験機会の提供　－　b　郷土の歴史、美術工芸、民俗資料美術作品等の収集及び展示機会の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)					2026年度 (実績)
1-1)-b-①	文化施設等の管理運営【博物館】	p.43	—	教育委員会	博物館	津軽の歴史、美術工芸等の資料の保全管理のほか、企画展、特別企画展を開催し、地域文化の向上を図るもの。	入館者数	14,094人	13,707人						企画展4本、特別企画展1本を実施	B	新型コロナウイルスの影響により90日ほど臨時休館したが、入館者数は前年から約400人減に止まり、影響は最小限に抑えられた。	企画展3～4本、特別企画展1～2本を実施予定
1-1)-b-②	文化施設等の管理運営【高岡の森弘前藩歴史館】	p.42	—	教育委員会	高岡の森弘前藩歴史館	高照神社に奉納された宝物を中心に、津軽・弘前の歴史・美術工芸資料を保存管理、展示公開し地域文化の向上を図るもの。	入館者数	6,959人	6,885人						新型コロナウイルスの影響による閉館のため、企画展の年間開催日数302日を、218日に短縮して開催した。	B	企画展開催日数の短縮に伴い、入館者数が減少したため。	令和4年度以降も事業継続予定。
1-1)-b-③	文化施設等の管理運営【郷土文学館】	p.43	—	教育委員会	生涯学習課 (図書館)	郷土文学館の指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、郷土出身作家等の文学作品などに触れる機会を提供するもの	総観覧者数	1,620人	2,075人						新型コロナウイルス感染症の影響で二度の臨時休館(101日)があったものの、自主事業は定員の半数ですべて実施することができた。	—	コロナ禍において、二度の臨時休館(101日)を余儀なくされたため。	令和4年度以降も毎年度事業計画を策定して事業を実施する。
1-1)-b-④	文化施設等の管理運営【弘前れんが倉庫美術館】	p.43	—	都市整備部	都市計画課	国内外の先進的なアートや、弘前の歴史・文化に関する作品を展示する企画展を年2回実施するとともに、スタジオ等を併設し、文化芸術活動を実施する場を提供。	①美術館来館者数 ②貸館業務利用件数	①26,542人 ②137件	①22,834人 ②329件						「りんご」をキーワードにした2回の展覧会や関連イベントを実施。また、スタジオ等の稼働率向上を目指し、広報活動を実施。	B	国の緊急事態宣言の発令等により、来館者数が当初想定を下回ったものの、展覧会の会期や関連イベント内容を見直しを行いながら実施したため。	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた年2回の企画展の開催。

基本目標 1　－　施策 2）　気軽に文化芸術に親しむことができる機会の提供　－　a　文化芸術に気軽に触れることができる機会の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）					
1－2）－a－①	弘前市民文化祭共催負担金	p.43	－	観光部	文化振興課	市内の主要な文化芸術団体が委員となっている弘前市民文化祭実行委員会に対し負担金を交付することにより、市民文化祭の運営を支援し、市の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③入場者数	① 27団体 ② 5件 ③1,402人	① 27団体 ② 16件 ③5,592人							今年度は昨年と変わらず27団体が参加したが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント開催数は16件にとどまった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で参加全団体がイベントを開催することはできなかったが、基準値に比べて件数、入場者数ともに大幅に増加したため、B評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
1－2）－a－②	岩木文化祭事業費補助金	p.43	－	観光部	文化振興課	岩木文化祭を開催することで、岩木地区の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③観覧者数	－	－							新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。 次回開催時の実績を指標とする。
1－2）－a－③	岩木文化祭事業支援	p.43	－	教育委員会	中央公民館 岩木館	岩木文化祭運営委員会が行う岩木文化祭を支援し、岩木地区の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③観覧者数	－	－							新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。 次回開催時の実績を指標とする。
1－2）－a－④	相馬地区文化祭	p.43	－	教育委員会	中央公民館 相馬館	相馬地区文化祭を開催することで、相馬地区の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③観覧者数	－	－							新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。 次回開催時の実績を指標とする。
1－2）－a－⑤	文化センターフェスティバル支援事業	p.43	－	教育委員会	中央公民館	弘前文化センターで活動する文化グループに日頃の活動の成果を発表する機会を提供することで、広く市民に活動への理解を深めていただくとともに市民の生涯学習活動の促進を図るもの。	参加者数	138人	138人							例年弘前文化センターで2日間開催していたが、弘前文化センター長寿命化改修工事に伴い、弘前市民文化交流館で1日のみに変更し代替事業を開催した。	A	弘前文化センター長寿命化改修工事に伴い会場及び会期を変更し代替事業を開催し、事業目的を達成することができたためA評価とした。	令和4年度は令和3年度同様代替事業を開催し、令和5年度以降は文化センターフェスティバルとして事業継続する予定。
1－2）－a－⑥	弘前市子どもの祭典支援事業	p.43	－	教育委員会	中央公民館	市民文化祭の一つとして、市内中学生・高校生で組織された子どもの祭典実行委員会のメンバーが子どもたちのために催しを企画・実行するもの。	来場者数	－	－							新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。 次回開催時の実績を指標とする。
1－2）－a－⑦	公民館まつり（地区公民館）	p.43	－	教育委員会	中央公民館	地区公民館（12館）の状況に応じた公民館まつりを開催することにより、地域住民の文化芸術活動等の学習成果発表と交流、親交を深める機種の創出を図るもの。	①実施公民館数 ②開催日数 ③参加者数	① 2館 ② 8日 ③256人	① 2館 ② 9日 ③276人							新型コロナウイルス感染症の影響により、大半の地区公民館が開催を見送った。	－	地区公民館12館のうち、開催したのは新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい内容に限定して実施した2館であることから、評価対象外とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
1－2）－a－⑧	【新規】地域のイベントと連携した文化芸術事業の検討	p.43	－	観光部	文化振興課	集客の見込める四大まつりなど、地域のイベント等と連携した文化芸術事業を展開することで、弘前の文化芸術の魅力を市内外の多くの人々が触れられる機会の創出を図るもの。	－	－	－	－						－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

基本目標 1　－　施策 3）　文化芸術イベントに関する情報発信　－　a　文化芸術イベントに関する情報の収集と効果的な発信

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)				
1-3)-a-①	【新規】情報の収集・登録・活用に係る仕組みづくりの検討	p.43	—	観光部	文化振興課	文化芸術団体の活動情報を広く発信できる仕組みを構築することで、市民の文化芸術活動への興味関心を高め、活動への参加を促進するもの。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。	

基本目標 1　－　施策4）　文化施設の利便性や機能の向上　－　a　文化施設の利便性や機能の向上

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)					
1-4)-a-①	文化施設等の管理運営【弘前市民会館】	p.43	—	観光部	文化振興課	弘前市民会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	86.4%	88.3%							施設についての9項目の満足度について、令和3年度は5,313の回答数があり、うち88.3%が良いと回答した。	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用休止があった中で、多くのアンケート回答を得ることができ、結果として90%以上の方から施設に対して評価している旨の評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1-4)-a-②	文化施設等の管理運営【弘前文化会館】	p.43	—	観光部	文化振興課	弘前文化会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	—	—	—						施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績はなかった。	—	施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績はなかったため、評価対象外とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1-4)-a-③	文化施設等の管理運営【弘前市民文化交流館】	p.43	—	観光部	文化振興課	弘前市民文化交流館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	91.4%	91.4%							「施設についての総合的な満足度」について、令和3年度は336の回答数があり、うち91.4%が満足・やや満足と回答した。	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用休止があった中で、多くのアンケート回答を得ることができ、結果として90%以上の方から施設に対して満足している旨の評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1-4)-a-④	文化施設等の管理運営【弘前市立百石町展示館】	p.43	—	観光部	文化振興課	弘前市立百石町展示館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	75.0%	—							新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の一環として、主催者との接触機会等低減のため、今年度はアンケート実施を見送った。	—	今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の一環としてアンケート実施を見送ったため、評価対象外とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1-4)-a-⑤	文化施設等の管理運営【岩木文化センター】	p.43	—	観光部	文化振興課	岩木文化センターの管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	97.9%	93.7%							新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策をはじめ、安全・安心して施設を利用できるよう維持管理に努めた。	A	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため施設休止の期間はあったが、施設利用者（主催者）からの有効回答における満足度は、90%以上となっていることからA評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。

< 施策・事業評価【基本目標2】 >

基本目標	指標の状況				2021年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	評価	評価の理由
基本目標2 文化芸術活動の活性化	市民文化祭や一流芸術文化イベント等の参加者数及び鑑賞者数	2,459人	19,434人	9,684人	○	今年度はNHKとの共催事業を開催し、市民文化祭の開催イベント数が16（昨年度は5）になるなど、昨年度より開催イベント数が増加した。ただ、今年度も補助金交付団体のうち3団体がコロナの影響で事業を中止した。結果として、参加者数及び鑑賞者数は基準値より大幅に上昇したため○とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

◆基本目標2　－　施策1）　市民の主体的な文化芸術活動に対する支援　－　a　市民文化祭の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画		
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）					2026年度 （実績）	
2－1）－a－①	弘前市民文化祭共催負担金（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	市内の主要な文化芸術団体が委員となっている弘前市民文化祭実行委員会に対し負担金を交付することにより、市民文化祭の運営を支援し、市の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③入場者数	① 27団体 ② 5件 ③1,402人	① 27団体 ② 16件 ③5,592人							今年度は昨年と変わらず27団体が参加したが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント開催数は16件にとどまった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で参加全団体がイベントを開催することはできなかったが、基準値に比べて件数、入場者数ともに大幅に増加したため、B評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
2－1）－a－②	弘前市社会教育協議会事業費補助金	p.45	－	観光部	文化振興課	弘前市社会教育協議会の活動を補助することで、弘前市民文化祭の事務を支援し、市の文化振興を図るもの。	遂行した補助事業数	4事業	4事業							社会教育団体に対して、計画どおり①連絡調整②団体育成③活動推進④活動支援の4事業を遂行した。	A	計画どおり4事業を遂行し、社会教育団体を補助することで市の社会教育を振興するという目的を達成したため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。

◆基本目標2　－　施策1）　市民の主体的な文化芸術活動に対する支援　－　b　補助金や後援などによる活動支援

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況		令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)					
2-1)-b-①	文化グループの支援・育成事業	p.45	—	教育委員会	中央公民館	弘前文化センターで活動する文化グループを支援（活動場所、発表機会の提供等）することで、市民の生涯学習活動の促進を図るもの。	グループ加入者数	263人	219人							弘前文化センター大規模改修工事に伴う代替活動場所の調整や文化センターフェスティバルの代替事業開催等の支援を計画通り実施した。	B	グループに対する支援は計画通り行われたが、グループの高齢化等に伴い加入者数が減少したため、B評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
2-1)-b-②	弘前市文化団体協議会事業費補助金	p.45	—	観光部	文化振興課	弘前市文化団体協議会の活動を補助することで、弘前市文化功労賞の表彰や美術展等の事業を支援し、市の文化振興を図るもの。	遂行した補助事業数	3事業	3事業							新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた講演会が実施できず、3事業の実施となった。今年度は青森県民文化祭オープニングフェスティバルの企画・運営主体を担った。	A	コロナ禍においても計画していた4事業中3事業を実施し、その中でも青森県民文化祭オープニングフェスティバルについては、企画・運営主体として精力的に取り組んだため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
2-1)-b-③	岩木文化協会補助金	p.45	—	観光部	文化振興課	岩木文化協会の活動を補助することで、岩木文化祭や春の文化芸能祭等の事業を支援し、岩木地区の文化振興を図るもの。	遂行した補助事業数	2事業	2事業							新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた岩木文化祭・春の文化芸能祭・献本運動が実施できず、2事業の遂行にとどまった。	—	計画では5事業を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大半の事業が中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
2-1)-b-④	市民参加型まちづくり1％システム支援事業	p.45	—	市民生活部	市民協働課	個人市民税の1％相当額を財源に、市民自らが実践するまちづくり、地域づくり活動に係る経費の一部を補助金の交付により支援するもの。	補助金交付事業数	48事業	45事業							新型コロナウイルス感染症の影響で事業が実施できなかったり、規模を縮小・オンラインに切り替えるなど、内容変更した事業もあったが、多くの団体は感染対策を適切に講じながら事業を実施した。市民活動の裾野を広げるため、新規事業者向けの「スタート部門」を導入、5件採択された。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止したり、規模を縮小した事業もあったが、概ね感染対策を適切に講じながら事業を実施できたため、B評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
2-1)-b-⑤	【新規】市民主体の文化芸術活動に対する新たな支援の枠組みの検討	p.45	—	観光部	文化振興課	文化芸術団体だけでなく、個人で活動する市内の芸術家等に対して支援することで、地域の新たな文化芸術の担い手の育成を図るもの。	—	—	—	—						—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

基本目標2　－　施策1）　市民の主体的な文化芸術活動に対する支援　－　c　活動支援体制の構築

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
2-1)-c-①	【新規】中間支援に係る事業等の検討	p.45	—	観光部	文化振興課	多様な文化芸術団体の情報を集約し、団体の活動の中間支援や活動の支援・連携のコーディネートを行うことで、さらなる文化芸術活動の活性化を図るもの。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。	

基本目標2　－　施策2）　文化芸術活動の場の提供　－　a　公共施設の利用促進

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）				
2-2)-a-①	【新規】文化芸術活動の場としての小・中学校や社会教育施設等の活用	p.45	-	観光部	文化振興課	学校や社会教育施設と連携して文化芸術団体が利用できる公共施設を増やしていくことで、文化芸術活動の場の拡充を図るもの。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。	

基本目標 2 - 施策 2) 文化芸術活動の場の提供 - b 利用者満足度の向上

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和 3 年度 実施状況	令和 3 年度 自己評価	評価の理由	令和 4 年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
2-2)-b-①	文化施設等の管理運営【弘前市民会館】（再掲）	p. 45	○	観光部	文化振興課	弘前市民会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	86. 4%	88. 3%						施設についての9項目の満足度について、令和3年度は5, 313の回答数があり、うち88. 3%が良いと回答した。	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用休止があった中で、多くのアンケート回答を得ることができ、結果として90%以上の方から施設に対して評価している旨の評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-②	文化施設等の管理運営【弘前文化会館】（再掲）	p. 45	○	観光部	文化振興課	弘前文化会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	—	—	—					施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績はなかった。	—	施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績はなかったため、評価対象外とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-③	文化施設等の管理運営【弘前市民文化交流館】（再掲）	p. 45	○	観光部	文化振興課	弘前市民文化交流館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	91. 4%	91. 4%						「施設についての総合的な満足度」について、令和3年度は336の回答数があり、うち91. 4%が満足・やや満足と回答した。	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用休止があった中で、多くのアンケート回答を得ることができ、結果として90%以上の方から施設に対して満足している旨の評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-④	文化施設等の管理運営【弘前市立百石町展示館】（再掲）	p. 45	○	観光部	文化振興課	弘前市立百石町展示館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	75. 0%	—						新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の一環として、主催者との接触機会等低減のため、今年度はアンケート実施を見送った。	—	今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の一環としてアンケート実施を見送ったため、評価対象外とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-⑤	文化施設等の管理運営【岩木文化センター】（再掲）	p. 45	○	観光部	文化振興課	岩木文化センターの管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	97. 9%	93. 7%						新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため施設休止の期間はあったが、施設利用者（主催者）からの有効回答における満足度は、90%以上となっていることからA評価とした。	A	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため施設休止の期間はあったが、施設利用者（主催者）からの有効回答における満足度は、90%以上となっていることからA評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。

基本目標 2 - 施策 3) 文化芸術団体の活動等に関する情報発信の支援 - a 文化芸術団体に関する情報の収集と効果的な情報発信

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和 3 年度 実施状況	令和 3 年度 自己評価	評価の理由	令和 4 年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
2-3)-a-①	【新規】情報の収集・登録・活用に係る仕組みづくりの検討（再掲）	p. 46	○	観光部	文化振興課	文化芸術団体の活動情報を広く発信できる仕組みを構築することで、市民の文化芸術活動への興味関心を高め、活動への参加を促進するもの。	—	—	—						—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

基本目標 2 - 施策 4) 障がい者等の文化芸術活動の促進 - a 誰もが活発に活動・参加できる環境づくり

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和 3 年度 実施状況	令和 3 年度 自己評価	評価の理由	令和 4 年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
2-4)-a-①	【新規】文化施設の機能向上	p. 45	—	観光部	文化振興課	文化施設運営者と連携して施設の機能の改善を図ることで、誰もが文化芸術に親しめる環境の整備を図るもの。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。
2-4)-a-②	【新規】各種施設へのアウトリーチ事業の検討	p. 46	—	観光部	文化振興課	保育施設や障害者施設、高齢者施設等での文化芸術イベントの開催を支援することで、文化芸術に触れる機会の充実を図るもの。	—	—	—	—					—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。
2-4)-a-③	障がい者福祉展、総合福祉作品展	p. 46	—	福祉部	障がい福祉課	障がい者週間（12月3日から12月9日まで）に、障がい児・者の方の作品展示を実施し、より多くの方の作品に触れる場を創出するとともに、共生社会を推し進める様々な活動のきっかけをつくることを目的に開催するもの。	作品数	18作品	6作品						例年ヒロロにおいて実施しているが、新型コロナウイルス感染症のため、市役所において規模を縮小して実施。	B	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、周知期間が短く、作品が集まらなかった。	令和4年度以降も事業継続する予定。

< 施策・事業評価【基本目標3】 >

基本目標	指標の状況				2021年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	評価	評価の理由
基本目標3 次代の文化芸術を担う人材の育成	後継者育成のための講習会等への参加者数	190人	790人	170人	□	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で弘前ダンスフェスティバル事業と弘前ユースストリングアンサンブル指導者招へい事業以外の後継者育成事業が中止となり、基準値より20人減少した。弘前ダンスフェスティバル事業自体の参加者数は昨年度とほぼ変化がないため□とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

◆基本目標3　－　施策1）　子どもや若者に対する文化芸術を体験する機会の充実　－　a　文化芸術の鑑賞・体験機会の提供と支援

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)					2026年度 (実績)
3-1)-a-①	子ども観劇・演劇ワークショップ事業	p.47	—	教育委員会	中央公民館	子ども達が優れた舞台芸術を鑑賞することにより情操を養う機会とするもの。また、中学校演劇部等に対し公演劇団による演劇指導を実施し、技術力の向上を図るもの。	①児童劇対象学年数 ②演劇ワークショップ参加者満足度	①1学年 (3年生) ②66.7%	①1学年 (5年生) ②100%						児童劇は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に引き続き対象学年は1学年とした。また、演劇ワークショップの事後アンケートにおいて、全員が「今後の参考になった」と回答した。	A	コロナ禍においても事業を実施することができ、かつ、演劇ワークショップに参加した中学生全員にとって今後の参考になる事業内容となったため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-a-②	アーティスト体験ワークショップ事業	p.47	—	教育委員会	中央公民館	芸術文化への興味・関心を持たせ、子どもたちの資質や能力を育むことを目的に多様な芸術文化をワークショップ形式で体験できるイベントを開催するもの。	①延べ参加者数 ②協力団体数	①274人 ②8団体	①309人 ②10団体						当初より、新型コロナウイルス感染症の対策を講じて実施するとし、おおむね計画通り実施した。	B	新型コロナウイルス感染症の対策により、参加者を100人に絞り込んだものの、参加率は約80%となったため、B評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-a-③	音楽芸術後継者育成事業	p.47	—	観光部	文化振興課	各音楽団体が行う後継者育成事業に対して経費の一部を助成することで、次代を担う若手演奏者の育成を図るもの。	①育成イベント参加者数 ②スクール・コンサート実施校数 ③楽器別講習DVD配付団体数	①20人 ②7校 ③16団体	①20人 ②7校 ③16団体						今年度は、弘前ユースストリングアンサンブル指導者招へい事業、弘前音楽祭事業、吹奏楽公演招致事業の3事業全てを実施した。弘前音楽祭事業のスクール・コンサートについては、新型コロナウイルス感染症の影響により申し込みのあった11校のうち7校での開催となった。	A	事業内容をコロナ禍でも実施できるものとし、全事業を実施できたため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-a-④	全国高等学校ファッションデザイン選手権大会等事業	p.47	—	商工部	産業育成課	全国高等学校ファッションデザイン選手権大会事業を中心にファッションを通じた地域活性化及びファッション業界での活躍を志す若者の機運向上を図るもの。	応募総数	35都道府県 95校 1,299チーム 2,248枚	35都道府県 95校 1,299チーム 2,248枚						新型コロナの影響により、出場チームの会場への招聘は見送り、作品のみを会場でマネキンに着装させ、審査実施。結果発表はオンラインで行った。	A	新型コロナが蔓延するなか、リモート開催したことで、学生及び教員からは感謝の声が多く寄せられ、事業目的を達成したと思われるため、A評価とした。	令和4年度以降は新型コロナウイルス感染症の感染状況を確認しながら、オンラインを活用しつつ有観客で事業展開をする予定。

◆基本目標3　－　施策1）　子どもや若者に対する文化芸術を体験する機会の充実　－　b　特色のある伝統文化に触れる機会の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)				
3-1)-b-①	ひろさき記(まんじ)学事業	p.47	—	教育委員会	学校指導課	各市立小・中学校において、弘前の「ひと・もの・こと」を題材に、地域への誇りや愛着を持つ心を涵養することを目的として取り組んでいる郷土学習。	—	—	—	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の学校では中止したものの、多くの小・中学校で取り組まれていた。	—	学校の教育活動として行われており、指標を設定することは学校活動を左右することから評価対象外とする。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-②	伝統文化学習講座	p.47	—	教育委員会	中央公民館 岩木館	子どもたちが地域の伝統工芸や文化・歴史にふれ、その良さを認識し、理解を深めるとともに地域に対する愛着と誇りを育む。	延べ派遣回数	98回	104回					新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当初の計画から派遣回数は減少したが岩木地区内の小中学校へ講師を派遣できた。	A	派遣回数は減少したものの、子どもたちが伝統芸能・文化に触れる機会の確保は概ねできたことからA評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-③	地域でまなぼう！食育講座いただきます	p.47	—	教育委員会	中央公民館	食に関する正しい知識や判断力、健全な食習慣を育成するとともに、地域交流の推進と活性化を図るもの。	参加者満足度	94.4%	94.3%					事業参加者への事後アンケートにいて、94.3%が講座内容に満足と回答した。	A	コロナ禍において調理等での対策に課題が出る中で講座を実施することができ、かつ、参加者満足度も90%以上と高い水準を保つことができたため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-④	地域産業魅力体験事業	p.47	—	商工部	産業育成課	市内の小・中学生を対象に、地元生産品に触れて、知って学ぶことで、豊かな感性や価値観を育み、優れた技能・技術を次の時代に伝えていくことを目指し、当市工芸品の製作体験や工場見学を実施する。	①実施校数 ②参加者数	① 4校 ②258人	① 9校 ②297人					新型コロナウイルス感染症の影響により、1校23人の製作体験を中止したが、日程を変更するなどして9割実施することができたため、B評価とした。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により数校の実施が危ぶまれたが、日程を変更するなどして9割実施することができたため、B評価とした。	令和4年度は、伝統工芸品の製作体験および工場見学を10校282人について実施する予定。
3-1)-b-⑤	りんご公園生産・管理費	p.48	—	農林部	りんご課	りんごに関する学習の場の提供	①来園者数 ②農作業体験者数	①58,665人 ② 6,951人	①58,143人 ② 6,775人					新型コロナウイルス感染症の影響により、3ヶ月間閉園したが、閉園中はコロナ対策を徹底したうえで、農作業体験等を実施した。	A	基準年度より閉園期間が長かったなかでも、基準値よりも微減にとどまったことから、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-⑥	青森県りんご基幹青年養成事業	p.48	—	農林部	りんご課	りんご農家の後継者等を対象に、生産技術及び経営、経済、農政などの基礎教育を行い、それぞれの地域において、中核的役割を果たす人材を養成するもの。(2ヶ年事業)	参加研修生/募集人員	23名/24名	23名/24名					基礎知識を一部復習しながら、応用を織り交ぜて実践的学習を実施。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、県外研修は中止とし、代替として県内研修を実施した。	A	コロナ禍により、一部制限をかけた上での受講メニューとなったが、予定していた全メニューを消化することができたため、A評価とした。	令和4年度は新たな2ヶ年事業(第33期)の1年度目として、継続的に実施するが、コロナ対策として募集人員を縮小して開催する。

◆基本目標 3　－　施策 2）　文化芸術に資する人材育成の推進　－　a　後継者育成と新しい文化創造への支援

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
3－2）－a－①	音楽芸術後継者育成事業（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	各音楽団体が行う後継者育成事業に対して経費の一部を助成することで、次代を担う若手演奏者の育成を図るもの。	①育成イベント参加者数 ②スクール・コンサート実施校数 ③楽器別講習DVD配付団体数	①　20人 ②　　7校 ③16団体	①　20人 ②　　7校 ③16団体						今年度は、弘前ユースストリングアンサンブル指導者招へい事業、弘前音楽祭事業、吹奏楽公演招致事業の3事業全てを実施した。 弘前音楽祭事業のスクール・コンサートについては、新型コロナウイルス感染症の影響により申し込みのあった11校のうち7校での開催となった。	A	事業内容をコロナ禍でも実施できるものとし、全事業を実施できたため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。
3－2）－a－②	NHK全国放送公開番組開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	市民に対し、NHKが制作する文化芸術番組の公開収録を開催することで、市の文化振興とPRを図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/席総数	①　　517人 ②517/620席	①　　517人 ②517/620席						新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約83%となった。	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約83%となったため、A評価とした。	令和5年度以降もNHKの開催募集に応募する予定（令和4年度は開催決定済）。
3－2）－a－③	宝くじ文化公演開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	市民に対し、上質な音楽や演劇等を安価で提供して、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/席総数	①　　0人 ②618/637席	①　　0人 ②618/637席						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和5年度以降も申請予定。
3－2）－a－④	将棋名人戦弘前対局記念大会事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	一流棋士を招へいし、指導対局や教室を行うことで一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	—	—						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。 次回開催時の実績を指標とする。
3－2）－a－⑤	弘前ダンスフェスティバル事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	一流のダンサーを招へいし、ダンスフェスティバルを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	参加者数	305人	1,830人						会場参加とオンライン参加の選択肢を設け、全国各地から参加者を集めることができた。	A	コロナ禍においても、オンラインを活用して全国各地からの参加を実現し、事業目的を達成したため、A評価とした。	令和4年度以降もオンラインを活用した事業展開をする予定。
3－2）－a－⑥	児童文化研究サークル連合会事業費補助金（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	弘前市児童文化研究サークル連合会の技術研修の一環として実施される人形劇団ブークの公演を開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	—	—						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。 次回開催時の実績を指標とする。
3－2）－a－⑦	弘前オペラ事業費補助金（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	弘前オペラを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/席総数	①　　326人 ②326/584席	①　　326人 ②326/584席						新型コロナウイルス感染症の影響により、延期および会場変更しての開催となった。	A	コロナ禍においても開催を実現し、市内小・中・高等学校生の無料招待をするなど事業目的を達成したため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。

◆基本目標 3　－　施策 2）　文化芸術に資する人材育成の推進　－　b　顕彰制度の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
3－2）－b－①	弘前市文化奨励賞	p. 48	—	観光部	文化振興課	文化芸術の分野において優れた成績を挙げた弘前市内の小・中・高等学校等の児童・生徒を表彰することで、今後の文化芸術活動の奨励を図るもの。	—	—	—	—	—	—	—	—	令和3年度は5名の推薦があり、うち3名を受賞者として表彰を行った。	A	コロナ禍ではあるが、感染防止対策を施したうえで、受賞者の家族も招待して表彰式を開催することができた。	令和4年度以降も引き続き表彰を行うっていく予定である。
3－2）－b－②	弘前市文化団体協議会事業費補助金（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	弘前市文化団体協議会の活動を補助することで、弘前市文化功労賞の表彰や美術展等の事業を支援し、市の文化振興を図るもの。	遂行した補助事業数	3事業	3事業						新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた講演会が実施できず、3事業の実施となった。 今年度は青森県民文化祭オープニングフェスティバルについては、企画・運営主体として精力的に取り組んだため、A評価とした。	A	コロナ禍においても計画していた4事業中3事業を実施し、その中でも青森県民文化祭オープニングフェスティバルについては、企画・運営主体として精力的に取り組んだため、A評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。

◆基本目標 3　－　施策 2）　文化芸術に資する人材育成の推進　－　c　文化施設等の専門的人材の配置・育成

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
3－2）－c－①	指定管理者が行う専門的人材の育成事業	p. 48	○	観光部	文化振興課	舞台技術者など、文化施設等の運営に必要な専門的人材の育成を、指定管理者と連携して行うことにより、文化施設等の安定的な管理運営を図るもの。	講習参加人数	—	—						新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和4年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。 次回開催時の実績を指標とする。

◆基本目標 3　－　施策 2）　文化芸術に資する人材育成の推進　－　d　活動支援体制の構築（再掲）

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
3－2）－d－①	【新規】中間支援に係る事業等の検討（再掲）	p. 48	○	観光部	文化振興課	多様な文化芸術団体の情報を集約し、団体の活動の中間支援や活動の支援・連携のコーディネートを行うことで、さらなる文化芸術活動の活性化を図るもの。	—	—	—	—					—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

< 施策・事業評価【基本目標4】 >

基本目標	指標の状況				2021年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	評価	評価の理由
基本目標4 市民が誇れる文化財の継承	郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じている市民の割合	63. 6%	67. 9%	65. 6%	□	指標の状況が基準値と比べほぼ変化がない状況であるため□とした。
	文化財の公開・活用イベント等に参加したことの市民の割合	20. 6%	24. 0%	23. 7%	□	新型コロナウイルス感染症の影響により多くの文化財の公開・活用イベント等が中止となったが、指標の状況が、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため□とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標4　－　施策1）　文化財の公開・活用と後継者育成　－　a　文化財の公開・活用

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)					
4-1)-a-①	弘前城本丸石垣整備事業	p. 49	—	都市整備部	公園緑地課	弘前城本丸石垣整備事業に伴い、関連イベント等を実施する。	①イベント開催日数 ②イベント参加人数 (日平均)	① 2日 ②240人	① 7日 ②240人							弘前城菊と紅葉まつりの開催期間にあわせ、連続7日間実施した。	B	コロナ禍で開催されるまつりをアシストする形で過去最長の期間でイベントを開催したが、想定以上の人出で相乗効果があった。	年間2日以上実施する予定。
4-1)-a-②	文化財施設公開事業	p. 49	—	教育委員会	文化財課	公開武家住宅（旧伊東家・旧梅田家・旧岩田家・旧笹森家）、瑞楽園、旧藤田家住宅、旧第五十九銀行本店本館、旧弘前市立図書館及び東照宮本殿を公開します。また、文化財に触れる機会を増やすため、指定管理者等と協力して様々なイベントを展開します。併せて、市民を対象に文化財保護意識の醸成を目的として、出前講座「弘前の文化財」を開催します。	入場者数	18,252人	30,041人							○施設公開 旧伊東家住宅（通年）、旧梅田家住宅（4月～11月）、旧岩田家住宅（通年）、旧笹森家住宅（通年）、瑞楽園（4月～11月）、旧市立図書館（通年）、旧藤田家住宅（通年）、東照宮本殿（通年）、旧第五十九銀行本店本館（通年） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館期間あり ○出前講座「弘前の文化財」開催 4回	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館期間があり、入場者数が伸びなかった	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、施設の公開や指定管理者と協力して文化財に触れるイベントを開催する。
4-1)-a-③	史跡等公開活用事業	p. 49	—	教育委員会	文化財課	大森勝山遺跡や堀越城跡の遺跡見学会、歴史を探究するシンポジウムの開催、小学校出前授業、学区内の文化財を調査し、市民に紹介する文化財探訪・紹介マップ事業の開催などを実施する。	参加者数	1,449人	308人							新型コロナウイルス感染症の影響により大型イベントが実施できなかったものの、小学校を対象とした出前授業等を実施した。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により当初予定していた事業がほとんど実施できなかった。	新型コロナウイルス感染症の影響を中止しながら、粛々とイベントや出前授業を実施していく。
4-1)-a-④	世界遺産登録推進事業	p. 49	—	教育委員会	文化財課	「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録のため、青森県等で組織する縄文遺跡群世界遺産登録推進本部と共に登録に向けた取組みを行う。	世界遺産登録	—	世界遺産登録達成	—	—	—	—	—	—	5月イコモス（ユネスコ諮問機関）より世界遺産登録勧告。 7月27日、第44回ユネスコ世界遺産拡大会合において世界文化遺産への登録が決定。	A	事業の目的である世界遺産登録が決定された。	世界遺産登録により事業廃止、令和4年度以降、大森勝山遺跡公開活用事業として世界遺産の周知等を行っていく。
4-1)-a-⑤	大森勝山遺跡公開活用事業	p. 49	—	教育委員会	文化財課	大森勝山遺跡の保存と整備を進めるとともに、子どもたちや市民への遺跡や縄文文化への理解を図るため、各種事業を実施する。	整備進捗率	31.6%	46.2%							園路等整備（2次）が竣工し、休息便益施設用給水管整備や説明板等整備（1次）を実施。 大型イベントが開催できなかったものの、地元小・中学校を対象とした出前授業を実施した。	B	史跡本体整備については計画通りの進捗が見れるものの、休息便益施設等の受け入れ態勢の整備については関係課等協議中である。	説明板等整備（2次）をもって史跡本体の整備が終了。休息便益施設やガイドダンス施設等の受け入れ態勢の整備を行っていく。
4-1)-a-⑥	古文書デジタル化推進事業	p. 49	—	教育委員会	生涯学習課（図書館）	古文書・古絵図等古典籍をデジタル化し、WEB公開し広く利活用を図り、文化・産業・観光面での二次活用を促進させ、学校教育及び地域の文化活動を支援します。	①古文書等のデジタル化公開数 ②古文書読み方講座の開催	①692冊 ② 4回	①705冊 ② 0回							対象古文書等63,039点のうち、藩庁日記を705冊公開した。進捗率は2.57%である。古文書読み方講座はコロナ禍ですべて中止となった。	—	古文書デジタル化は、撮影から公開まで順調に実績が積み上がっているためA評価であるが、古文書読み方講座はコロナのため中止となったため。	令和4年度中にデジタル化第2期基本計画の策定を目指し、この計画に沿ってデジタル化と公開等を進めていく。

◆基本目標 4　－　施策 2）　文化財の整備・保存と地域に根差した文化遺産の伝承　－　a　文化財の整備・保存

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
4－2）－a－①	重要文化財等修理事業補助	p. 50	－	教育委員会	文化財課	重要文化財の保存修理及び防災設備の設置を進める。所有者が個人の場合は保存修理等の費用を補助する	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	重要文化財誓願寺山門保存修理事業を実施。	B	保存修理について計画を通り実施することができた。	今後も重要文化財の適正な維持管理を進める。
4－2）－a－②	指定文化財管理事業補助	p. 50	－	教育委員会	文化財課	重要文化財建造物及び名勝等庭園を維持するため、所有者が行う防災設備保守点検や除排雪等の経費、庭園維持管理経費を補助する。	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	重要文化財建造物の防災設備保守点検及び除排雪　11件（うち1件は防火設備の小修理も実施） 名勝等庭園の維持管理　3件	B	消防設備点検及び維持管理を計画通り実施することができた。	今後も重要文化財建造物及び名勝等庭園の適切な維持管理を進めていく。
4－2）－a－③	伝統的建造物群保存地区修理修景事業補助	p. 50	－	教育委員会	文化財課	地区住民が行う伝統的建造物等の修理修景に対し補助を行う。	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	伝統的建造物屋根修理　1件 非伝統的建造物（車庫）修景　1件 サワラ生垣修理修景　4件	B	仲町地区の歴史的風致の維持・向上のため、修理修景事業への補助を行った。	伝統的建造物等の所有者と協議しながら、計画的に補助事業を進める。
4－2）－a－④	伝統的建造物群保存地区保存計画及び防災計画見直し事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	歴史的風致の維持・向上が図られるよう、保存計画や現状変更許可基準の見直しを行う。防災計画については、総合的な防災対策の実現に向け新たな防災計画を策定する。	新計画の策定を目的とした事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	防災計画見直しに向けた1年目の調査を実施。	B	2ヶ年調査の1年目の調査について、概ね予定通り実施した。	引き続き、2年目の調査を実施し、調査結果を取りまとめた報告書を令和4年度中に作成する。 令和5年度には、報告書に基づき新たな防災計画を策定する。
4－2）－a－⑤	津軽塗技術保存伝承事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	津軽塗の調査・研究を通じた技術研鑽と、後継者育成に係る経費の一部を補助し、後継者育成に係る研修や津軽塗技術及び作品に係る普及啓発を図るための拠点として旧紺屋町消防屯所を有効活用する。	旧紺屋町消防屯所の維持管理費用及び1団体への補助金交付のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	旧紺屋町消防屯所維持管理（機械整備、消防設備点検等）の実施、津軽塗技術保存伝承事業費補助金の交付	B	施設の適切な維持管理を行い、補助金を交付することができた。	今後も施設の適切な維持管理に努めながら、津軽塗の技術研鑽、後継者育成を支援していく。
4－2）－a－⑥	市有漆林管理事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	国産漆の安定供給を図るため、持続可能かつ適正な漆林の維持管理を行う。	本事業は漆林の維持管理業務であり、かつ漆採取についても、資源保護のため毎年度の実施が困難であるため指標の設定は困難。	－	－	－	－	－	－	－	70本の漆木から11・9kgの荒味漆を採取	B	国産漆の安定供給に向けて、11.9kgの荒味漆を採取した。 なお、採取した漆については、令和4年度に、市内の重要文化財建造物の保存修理に使用する予定。	令和4年度は資源保護のため採取は休止。 令和5年度以降については、生育状況等を見ながら採取を再開する見込み。
4－2）－a－⑦	無形民俗文化財用具修理事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	活動に必要な用具の修理や更新の経費の一部を補助する。	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	県指定無形民俗文化財用具修理1件　41千円 市指定無形民俗文化財用具修理1件　234千円	B	用具修理を計画通り実施することができた。	今後も各保存団体から用具修理計画の聞き取りを実施し、計画的に用具修理を進めていく。
4－2）－a－⑧	大森勝山遺跡公開活用事業（再掲）	p. 50	○	教育委員会	文化財課	大森勝山遺跡の保存と整備を進めるとともに、子どもたちや市民への遺跡や縄文文化への理解を図るため、各種事業を実施する。	整備進捗率	31.6%	46.2%						園路等整備（2次）が竣工し、休息便益施設用給水管整備や説明板等整備（1次）を実施。 大型イベントが開催できなかったものの、地元小・中学校を対象とした出前授業を実施した。	B	史跡本体整備については計画通りの進捗が見れるものの、休息便益施設等の受け入れ態勢の整備については関係課等協議中である。	説明板等整備（2次）をもって史跡本体の整備が終了。休息便益施設やガイダンス施設等の受け入れ態勢の整備を行っていく。

< 施策・事業評価【基本目標5】 >

基本目標	指標の状況				2021年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	評価	評価の理由
基本目標5 文化芸術を活かしたまちづくり	文化芸術が市の観光振興や産業振興などまちづくりに活用されていると感じる市民の割合	68.4%	75.6%	68.4%	—	2021年度実績より取得開始のため、評価対象外。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標5　－　施策1）　文化芸術による新たな価値の創造と観光・産業分野等との連携　－　a　文化資源を活用した観光振興

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
5－1）－a－①	歴史的資源を活用した観光まちづくり事業	p. 51	－	観光部	観光課	歴史的資源の観光面での活用を図るため、文化財等の活用可能性を調査するとともに、飲食・宿泊利用等での試験的活用を行うもの。	試験的活用から本格運用へと昇華した文化財等件数	1件	3件						A	観光面での活用はもとより、取組み自体を一過性のものとしないために、産学官金連携の座組みで、活用することで持続的な保存に繋げる歴史的資源の保存・活用好循環スキームの構築も図れたため。	観光庁の「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」に官民連携で取り組み、試験的活用から本格運用へと昇華した文化財等を絡めた観光ツアー造成することで、歴史的資源の観光収益化を図る。
5－1）－a－②	近代建築ツーリズム推進事業	p. 51	－	都市整備部	都市計画課	前川國男設計の公共建築物が存在する9自治体のネットワークにおいて、情報やノウハウの共有・魅力的なPRツール開発により近代建築の魅力を広く発信し観光資源化を促進する。	実施した事業数	5事業	5事業						B	コロナ禍により総会を書面開催とし、市内での前川建築パネル展が中止となったがそれ以外の事業は概ね実施することができ、前川建築の魅力発信に繋がった。	1. 総会開催 2. 弘前さくらまつりでの展示 3. 前川建築カード配布 4. 市内での前川建築パネル展の実施 5. 前川建築パネルの庁内設置
5－1）－a－③	弘前城本丸石垣整備事業（再掲）	p. 51	○	都市整備部	公園緑地課	弘前城本丸石垣整備事業に伴い、関連イベント等を実施する。	市内学生史跡見学者数	－	－						—	開催できなかったため、評価対象外とした。	令和4年度から再開し、市内小学生を対象に実施中。 令和4年度の実績を指標とする。

◆基本目標5　－　施策1）　文化芸術による新たな価値の創造と観光・産業分野等との連携　－　b　文化芸術を通じた産業振興

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
5－1）－b－①	工芸品の販路拡大・販売促進事業	p. 51	－	商工部	産業育成課	国の伝統的工芸品に指定されている「津軽塗」や、地元で生産されている各種工芸品の国内外の販路開拓・拡大に総合的に取り組み、地域産業の活性化の促進を図るもの。	津軽塗の総生産額	275百万円	－	実績未確定					B	新型コロナウイルス感染症の影響により一部のイベントが中止となったが、展示会の出展・PRや後継者育成事業が円滑に実施され、津軽塗業界の活性化に繋がりを、また、藤田記念庭園匠館で、当市工芸品のPR・販売を継続的に実施していることからB評価とした。	令和4年度以降も事業継続する予定。

基本目標5　－　施策2）　さまざまな主体と連携した文化芸術によるまちづくりの推進　－　a　さまざまな主体や事業との連携・協働

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
5－2）－a－①	【新規】中間支援にかかる事業等の検討（再掲）	p. 51	○	観光部	文化振興課	多様な文化芸術団体の情報を集約し、団体の活動の中間支援や活動の支援・連携のコーディネートを行うことで、さらなる文化芸術活動の活性化を図るもの。	－	－	－	－				－	—	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

基本目標5　－　施策2）　さまざまな主体と連携した文化芸術によるまちづくりの推進　－　b　地域のイベントとの連携（来場者数の増加と発信力の強化）

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和3年度 実施状況	令和3年度 自己評価	評価の理由	令和4年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
5－2）－b－①	【新規】地域のイベントと連携した文化芸術事業の検討（再掲）	p. 51	○	観光部	文化振興課	集客の見込める四大まつりなど、地域のイベント等と連携した文化芸術事業を展開することで、弘前の文化芸術の魅力を市内外の多くの人々が触れられる機会の創出を図るもの。	－	－	－	－				－	—	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。